

一、農民の心葉 大正五年一月一日

二、~~農民~~ 人なことが書いてあります、最

表紙に

かちりしつかりしたなとちよつと考へる次第です。その位のものゝす。

と庶民的なる、平明純一の言。葉末かこの「巻に

直本めぐる。そして、そこに曲を民生はのこと

実なるま。白がある。鮮めな民族の使命がある。犬

いなる詩人のよろこびがある。表紙せしめたる感、激

は、あつゆるんたの物裏に苦鳴し、民族の新生

命を受つせしめるであらう。